

短期大学部保育科

夏休み
特別版

卒業生のライフコース



短期大学部保育科では、オープンキャンパスで卒業生に公開インタビューを行い、保育の魅力を伝えるプロジェクト「短大卒のライフコース」を、2022年度より実施しています。保育科の卒業生は、保育の学びを自ら発展させて、創造的な人生を切り開いています。その多様性に触れ、保育からはじまるあなた自身の将来を展望するきっかけとなれば幸いです。

2022年度オープンキャンパスでのEpisode1, Episode2, 2023年度オープンキャンパスでのEpisode3, 4を収録した特別版でお届けします。



Interview01

飯野真希さん

2021年度 卒業

松の実保育園保育士

静岡県立富士高等学校出身

現場に出て働くことで得るもののが沢山ある
短大を選んで良かった！

Q1.短大を選んだ理由

好きなこと(子ども、歌、運動など)を活かせる仕事に繋がる大学を選びました。「4年制に通う学生より学ぶ期間が少ない」と焦る想いもありましたが、「同級生が就職する頃には、私は既に社会人としての経験を2年も積んでいる！」とポジティブに捉えることができました。現場に出て働くことで得るもののが沢山あるので、短大を選んで良かったと感じています。

Q2.短大生活で印象に残っている授業は？

特に印象に残っているのは『レクリエーション論』の授業です。朝霧の自然の中で、子ども達と一緒に野外調理やキャンプファイヤーを行いました。探検中に集めた乾いた木々で火起こしをしたり、時には台風のような大雨の中で活動したりと、天候や気温に左右されることもありましたが、そのおかげで状況に合わせて対応しようとする力が身に付いたと思います。

Q3.実習ではどんなことが心に残っていますか？

実習では、活動に向けて素材研究をする大切さを感じました。私が5歳児クラスの部分実習で行ったのは、スクランチという活動です。事前に自分自身が試すことで、「画用紙を全てクレヨンで塗りつぶすのには根気が必要で、達成感を味わえるんだ」とか、「花や動物などの絵だけではなく、線の太さの違いや模様を楽しんだり、文字を描きたいと思う子もいるだろうな」とか、様々な子どもの姿を想定した上で実践することができました。

Q4.現在のお仕事について

5歳児クラスの20人を2人担任で見ています。やりがいを感じるのは、子ども達から「もう一回やって！」「またやりたい！」と言ってもらえた時です。最近だと、わらべうたなどの手遊びや、にじみ絵で制作した時、広告紙

で紙鉄砲を作って遊んだ時など…。自分が実践した活動を楽しんでもらえたのだなあと実感できます。

難しいと感じているのは、子どもへの指導をする時です。子どもの気持ちを受け止めつつも、良くないことの判断や危険なことについてはしっかりと伝える必要があるのですが、どんな伝え方をすれば良いのか？どこまで子どもの欲求に応えてあげられるのか？と悩むこともあります。去年担任をしていた先輩保育士に話を聞いたり、前年度の保育記録を読んだりしながら、その子に合った支援ができるように情報を集めています。

Q5.短大での学びが活かされていると思うこと

短大で繰り返し学んだのは、PDCAの大切さです。PDCAとは、「計画を立てる→実際に試す→考察をして改善点を見つける→次の計画に繋げる」というサイクルのことです。短大の授業では、『子どもの運動遊び』『保育内容研究(表現)』『子どもの音楽』など、計画した活動を実践する機会が沢山あります。同じ活動でも、何歳とやるのか、何人でやるのか、どこでやるのかなどによってアプローチの仕方が変わってきますし、先生や同級生からのコメントは気付きを得るヒントになります。



Q6.保育の道を目指す高校生へメッセージ！

進路選択で悩んでいる人もいるかと思いますが、色々な大学を調べた上で、それでも最後に常葉短大の保育科を選んでもらえたらとても嬉しいです。沢山の後輩が入って、一緒に働く仲間となってくれることを楽しみにしています。頑張って下さい！



Interview02

上野友莉さん

2021年度 卒業

羽鳥るり幼稚園 保育教諭

常葉大学附属橘高等学校出身

大好きな子どもたちとの毎日が楽しい！

子どもが好きという気持ちを大切に

Q1.短大を選んだ理由

実践的な授業が多く、2年で集中的に学び、現場で経験を積みたいと考えたからです。

Q2.短大生活で印象に残っている授業は？

『障害児保育』の授業では、障害を知り、障害の捉え方を改めて考えることができました。『特別支援教育』の授業では、特別支援の内容を考え、自分の保育観を深めることができました。

Q3.入学前に不安だったことはありますか？

私はピアノが本当に弾けなかったので、とても不安でした。でも、ピアノの授業では個人レッスンがあり、一対一で教えてもらったり、自分でも練習したりして、少しずつできるようになりました。今は弾けています。

Q4.短大生活で大変だったことはありますか？

短大生活で大変だったことは、そんなになかったなと感じているのですが、強いてひとつふたつ言えば、コロナウィルスの流行下だったので入学してから6月まで大学には一切行けず、友達にも会えず、慣れないオンライン課題に取り組まなければならなかったことです。もうひとつは、実習と試験の時期が近いときには、実習準備と試験勉強との両立が難しいなと感じていました。

Q5.アルバイトはしていましたか？

はい、飲食店をふたつ掛け持ちしていました。短大保育科は忙しいとは思いますが、実習前で準備が大変なときはシフト調整をして頂いたりなど、アルバイト先の方が配慮してくださったので続けることができました。

Q6.実習で印象に残っていることは何ですか？

初めての教育実習で緊張していたときに、保護者の方が「子どもが先生のこと大好きって、いつも家で話しています！」と話しかけてくださったことです。とても嬉

かったですし、その後の実習で大変なことがあったときも、心の支えになりました。

Q7.現在のお仕事について教えてください

3歳児の担任をしています。私は幼い頃から、保育者になることが夢だったので、可愛い子どもたちと過ごす毎日の保育のすべてが楽しいです。ひとりひとりに合わせた保育をしていく中で、集団生活との一貫性を持たせることを難しく感じています。

Q8.短大での学びが生かされていると感じることは

2年生のときの教職実践演習で、ねらいや目的、準備物等を全て自分たちで決めて計画・実行した経験が、週案や日案を書く上で活かされています。私たちのグループは、キャンプや動物園での活動を行いましたが、計画通りに行くことばかりではなく、いろいろなパターンを想定して活動を考えるということが身に付きました。

Q9.短大の友達とのつながりについて

短大の友達とは、今も頻繁に連絡を取り合っています。大変なことも楽しいことも、一緒に乗り越えてきた仲間からこそ、短大の友達は私にとって本当にかけがえのない存在です。先日も、短大の友達6人で、バーベキューをしてきました！

Q10.保育を目指す高校生へのメッセージ

子どもが好きなだけでは保育者になれない、自分で思ったことも、誰かに言わされたことも、あったかもしれません。私はまだ現場に出て4ヶ月ですが、子どもが好きなだけでは難しいなと思うこともあります。しかし、私が今こうやって保育ができるいるのは、可愛い大好きな子どもたちがいるからです。なので、皆さんに持っている子どもが好きという気持ちや、保育者になりたいという気持ちを大切に、短大生活を頑張ってください！



03 Interview

鳥羽智史さん

放課後等デイサービス
かぶとむしクラブ 室長
2007 年度 卒業

「困った」は、「ありがとう」に変えられる！
子どもの声に寄り添うことが大事

Q1 かぶとむしクラブについて教えてください。

かぶとむしクラブは、児童福祉法に基づく放課後等デイサービスの事業で、障害を抱える小学1年生から高校3年生までの子どもをお預かりしています。児童クラブと大きく違うことは、利用者一人一人の個別支援計画を作成し、それに沿って日々の支援に当たることです。かぶとむしクラブでは、いろいろなバックグラウンドの人が、子どもたちに関わっています。例えば、保育士資格を持っている人、幼稚園教諭免許や教員免許を持っている人。資格は持っていないんだけれども「子どもに関わる仕事で一生懸命働きたいよ」という人もいます。その他、水泳、バスケ、サッカーなど、いろいろなスポーツをやってきた人も、いっぱいいます。

Q2 かぶとむしクラブ設立の経緯は？

かぶとむしクラブを設立する前、私は私立保育園に4年間、公立保育園に4年間、保育士として勤務をしていました。公立園で加配保育士として障害のある子たちを担当したとき、その子たちを含めて「障害のある子たちが社会に出ていくときに生きにくい社会じゃ駄目だろう。何かできないかな。」と思い、かぶとむしクラブを設立しました。

Q3 発達支援にかかわる人に求められることは？

私は、「子どもの声にどれだけ寄り添ってあげられるかな、ただ子どもの声を聞くだけじゃなくて、今その子が何を思っているのかな、何を考えているかな、何を思って行動しているのかな。」というのを、しっかりと見ることを大事にしています。そして何よりも、子どもたちとの信頼関係というのが大切です。現場では、一人一人の子どもたちの障害が違い、大変なところもいっぱいありますが、一人一人をしっかり見てあげることで、寄り添える支援者になっていけるんじゃないかなと思います。

Q4 短大時代は、どんな学生でしたか？

自分が短大に入ったときは、保育士を目指す男性が少ない時代でした。当時、常葉大学短期大学部保育科には男子学生が3人しかいなくて、周りが女性ばかりで圧倒されていたというのが本音です。ですが、3人ともスポーツ経験者で、体を動かすのが好きということで意気投合し、授業の空き時間は、体育館でバスケをやったりとか、サッカーをやったりとかして、よく遊んでいました。一方で、授業の課題（造形等）では家に集まり、3人で楽しく作業をしていた思い出があります。また、男性保育者の先輩や専攻科の先輩たちとのつながりもあり、楽しい日々を過ごしていました。

Q5 保育の道を目指す高校生にメッセージ！

これから保育者を目指す学生のみなさんは、「これでいいのかな」と思うことって、多分たくさんあると思うんです。そのときは、もう、大いに迷ってください！一度立ち止まって、「本当にこれでいいのかな」っていうのを考えてみてください。また、学生のうちにいろんな体験をしてください。ボランティアでもいいし、実習でもいいし、バイトでもいい。いろいろな経験をすることで、いろいろな価値観がついてくると思います。そして何よりも、自分の意見を大切にしてほしいです。周りに合わせるということだけがいいわけではありません。「自分はこんなこと言っていいのかな」って思うかもしれません、どんどん言ったほうがいいと思います。だからといって言い過ぎもよくないんですが。常にいろんなことを考える癖をつけることでいろいろなことが見えてくるかなと思います。

今の自分が、かぶとむしクラブで大切にしている理念は、「静岡の困ったをありがとうに」っていうことです。皆さんも自分の道を信じて頑張ってください、応援しています。



04 Interview

むらまつけーじさん

絵本作家

2005 年度 保育科 卒業

2007 年度 保育専攻科 卒業

子どもたちと一緒に、自分自身も夢へと
チャレンジしていこうと思い、絵本作家に

Q1 幼稚園教諭から絵本作家になった転機は？

僕は年長児の担任をしていることが多くて、8年間のうち年長が6年。年長にもなるとできることができますよね。例えば逆上がりとか、楽器を弾くとか、チャレンジする場面が多いと思うんですけど、なかなか最初からできる子っていうのはいなくて。子どもたちには「チャレンジすること」「コツコツやれば、必ずできるようになるよ」っていうことを、言葉として伝えてはいたんですよね。でも、じゃあ自分は何かにチャレンジしてるか、自分は何かに頑張っているかなって思ったときに「言ってる先生が、何もチャレンジしてない」と。先生として年数を重ねていくうちに、マンネリ化してしまったり、その環境に漬かってしまったりっていうところがあったので、これはちょっといけないと。そういうことがありますて、最後に受け持った年長児たちと一緒に卒園をして、僕自身も一から夢に向かって、子どもたちと一緒にチャレンジしていこうっていうふうに思ったのが、一つのきっかけにはなっているかなと思います。

Q2 生きている証 生きていることと表現とは

生きること、表現すること、なかなか難しいですね。まず生きてなければ表現することもできないと思っているので、前提としては「生きる」っていうのはとても大事なことだと思います。自分の表現の仕方って無限にあるとは思ってて。だけど人生って、やっぱり有限で、その部分で言ったら本当に何があるかわからない。もしかしたら僕が明日、事故にあって死んでしまうかもしれないし。なんかそういうことをいろいろ考えたときに、何か残したいって思ったんですよね。ここに生きていたんだぞ、むらまつけーじが生きていたんだぞっていう証を残したいなと思って。それを考えたとき、自分は絵本っていう形、自分の作品っていう形でそれを表現したいなっていうのがありました。僕が表現したことによっ

て、それを見てくれる人が笑顔になってくれたり、僕の作品を見てくれた人がほっこりした気持ちになってくれたり、描いた絵本がそういう思いを届けられるようになってくれたらうれしいと思っていますね。

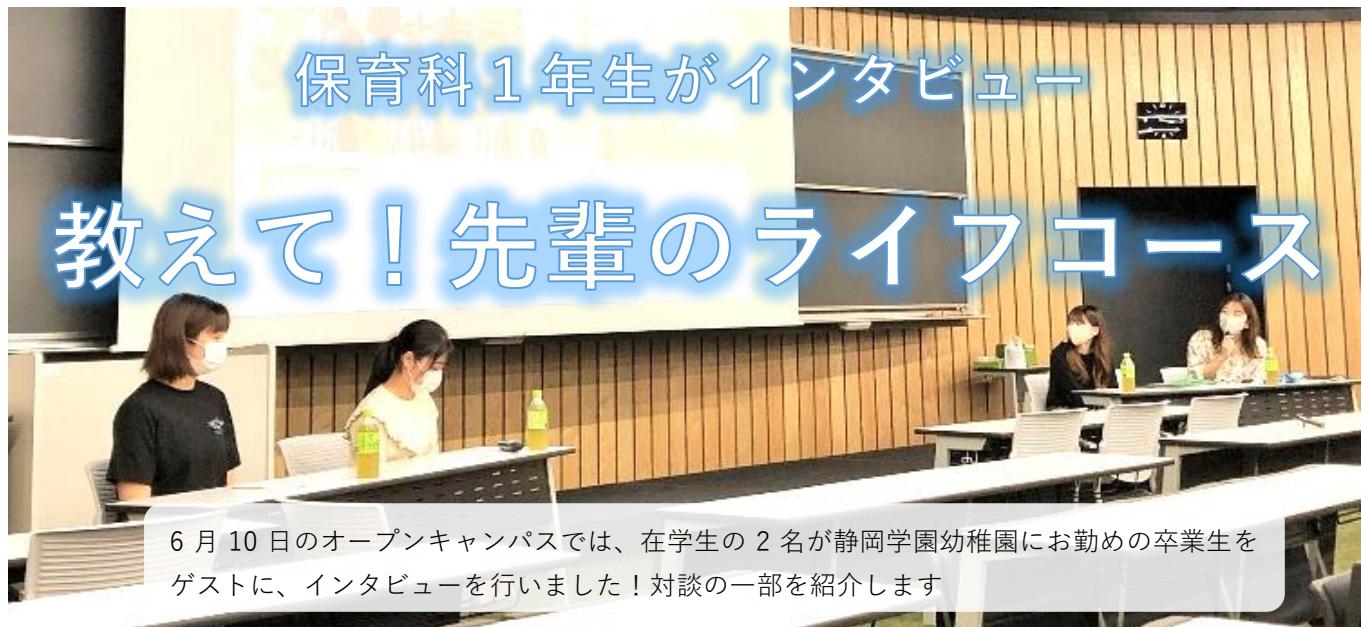
Q3 保育も絵本作家も、常に成長できる仕事

保育も、絵本作家も、常に成長できるっていうところが一番のやりがいかなというふうに思っています。僕は、本当に子どもが好きで保育の道に入ったので、子どもとの関わりっていうのは仕事を変えても続けていきたいと思っています。幼稚園の先生は辞めたけれど、今はその思いが形になって、しっかりと子どもと関わる仕事ができているっていうのは、なんかすごく自分にとってもうれしいし、やりがいがあるなと思っています。

Q4 保育の道を目指す高校生にメッセージ！

保育をするにあたって本当に大事なのは、自分も一緒に成長していくってことだと思うんですよ。本当に保育っていうのは奥が深いし、宝探しみたいに掘れば掘るほど、いろいろな楽しみが出てくるので、本当にすてきな仕事だと思います。何より子どもたちの成長に携われるっていうのが、すごく魅力的なことだと思うので、楽しんで、子どもと一緒に成長していってほしいなと思っています。





保育科1年生がインタビュー

教えて！先輩のライフコース

6月10日のオープンキャンパスでは、在学生の2名が静岡学園幼稚園にお勤めの卒業生をゲストに、インタビューを行いました！対談の一部を紹介します

Q1 先輩方の学生生活について教えてください。

高辻：私自身も短大生のときには、実習等が重なると、少し忙しいかなっていうふうに感じたこともありましたけれども、私自身は普通にバイトもしていて、バイト仲間と一緒にディズニーランドに行ったりだとか。サークルでは、週に一度バスケットボールをして、楽しく過ごしていました。同じクラスになった友達と、毎日同じ授業を受ける中で、だんだん仲良くなつて、「今日はお弁当一緒に食べようね」、「いいよ」、「きょうは芝生で食べてみる？」なんて話をしながら、キャンパスには芝生もあるので、そこでみんなでご飯を食べたりとか。とても充実した学生生活を送っていたように感じます。

Q2 先輩方の「実習」について教えてください。

鉢田：初めての実習だとすごく緊張して、どうやって子どもと関わつたらいいのかなとか、そういう不安もあるかと思います。幼稚園の先生とか保育士って、経験ありきの仕事だと思っているので、実習で学んだことをすぐ学校に持ち帰り、またすぐ実習に出られるっていうのは、短大だからこそできることかなって思っています。短大では、1年生のときも2年生のときも、実習がぎゅっと詰め込まれているんですけど、学んだことを記憶に新しいまま、また学ぶことができて、また実習に行くことができるのがよかったですって私も思っています。ちょうど昨日まで短大の実習生が幼稚園にも来ていたんですけど、すごく楽しかったとか、子どもたちとお別れするのがすごく寂しかったですって言ってくれる実習生さんが多くて。幼稚園の先生の仕事の楽しきが分かってよかったですって私も思いました。実習はちょっと緊張するかもしれないけど、後から振り返ると、案外楽しいものだと思います。

Q3 短大卒は不利かも？…と思うと心配です。

高辻：自分自身は、本当に短大を選んでよかったと感じています。短大卒業生のほうが、いろんなことを早く体験し、たくさん吸収することができるのかなっていうふうに、個人的には感じています。(就職して) 実際に実践をして、「体験」したことが「経験」となってくる…もちろん失敗もたくさんしちゃうと思うんですけど、そこからたくさん吸収して学んだことを「経験」として生かすことができたので、短大にしてよかったと思っています。

私が4年目の時に、同い年の先生とペアになりました。ペアの先生は4年制大学を卒業されていたので2年目でした。その時に、2年間の「経験」の差を感じる場面がありました…例えば、「こういう保育をしたら、こういうふうになるな」っていうのを私は何となく想像できたとしても、ペアの先生は(経験の蓄積がまだないために)その予測ができない、とか。そんなとき、短大を卒業してから自分が実践してきた保育や援助のひとつひとつが、ずっとキャリアとなって積み重なっているのだと感じ、短大を卒業してすぐに現場に出てよかったです。

鉢田：四大卒の先生も入ってきて、いろいろ比べることが多いんですけど…。四大卒の先生と比べると、同じ年齢でもお給料の差とか出ちゃうんじゃないかなって心配になる方もいらっしゃると思いますが、実際にはお給料は年々上がっていくものですし、同じ年の人とお給料を比べたときはそんなに差もないですし。むしろ、短大卒で早く経験を積んだ人のほうがもらってるかも…と感じるところもあります。保育は経験ありきの職業、2年間学んですぐ現場に出たほうがいいなって思うので、短大のほうが私もいいかなって思います。

✿ゲスト✿



高辻栄理さん

2018年度 卒業
静岡学園幼稚園 保育教諭
静岡県立清水西高等学校出身



鉢田千晴さん

2017年度 卒業
静岡学園幼稚園 保育教諭
静岡県立静岡西高等学校出身

✿インタビュー✿



小山実杏さん

常葉大学短期大学部 1年
常葉大学附属常葉高等学校出身



大石優花さん

常葉大学短期大学部 1年
静岡県立浜北西高等学校出身

Q4 園ではピアノをどのように使っていますか？

高辻：私たちの幼稚園では、朝の会や帰りの会に、朝のお歌、帰りのお歌を歌うときにピアノを弾いています。また、季節が感じられるように、今ですと、『かえるのうた』や『かたつむり』など、その季節のお歌を歌っています。こうしたお歌は、ピアノを弾いて、実際に教えています。私自身も学生時代は、本当にピアノが苦手でした。自分自身が工夫してやっていることとしては、楽譜どおり弾かなきゃいけないっていうふうに思わなくてもいいのかなと感じていて、自分なりに弾きやすい音に変えてみたりとか、難しいところは和音だけにしてみたりとか、そういう工夫をしています。一番大切なのは、子どもたちが歌いやすい、楽しいってことが感じられることです。園では、ピアノは毎日弾くものなので、焦らなくても、毎日の積み重ねが大事だと思います。

Q5 制作活動は、どのように行っていますか？

鉢田：子どもの意見から制作を始めことが多いです。先日、雨が続いた日に子どもたちが、「きょうは雨だから雨を作りたい」って言っていたので、雨を作りました。大人がネガティブに捉えてしまう雨でも、子どもたちにとっては本当に楽しい雨だったりして…。つなげると風が吹いたら動いたり、すてきな制作になりました。私は短大の図画工作の授業でまとめた教材ファイルを、今でも幼稚園で使っています。授業で



作ったものをファイルしたのですが、そのひとつを年長さんに見せたら「やってみたい！」って言ってくれました。短大の授業が活かされてよかったです。

Q6 最後に、メッセージをお願いします！

高辻：子どもたちの成長を感じることができるっていうのが保育者の魅力であり、またやりがいだなっていうふうに感じています。以前2歳児で受け持った子どもたちが、今は年中になっていますが、その子たちが2歳児を見て「最初、俺たちもこんなふうだったよね、僕たちもこうだったよね、泣いてたよね、上靴履けなかったよね…」なんて振り返っていました、すっかりお兄ちゃんとなって私の手伝いをしてくれたりとかする姿に、すごく成長を感じています。また、私自身は「先生のおかげでこんなことができるようになりました」、「こういう成長も見られてうれしいです」、って声を掛けてくださる保護者の方の言葉にすごく支えられていて、このお仕事のやりがいや楽しさを感じることができます。私たちも現場に出ると、これから保育者を目指す方にお話しする機会がないので、今日こうしてお話しさせていただいて本当によかったです。ありがとうございました。

鉢田：私は今、年長児の担任をしています。年長さんは幼稚園にも慣れていて、すごくいろんなことを言ってくるんですけど、一つ一つの発言が本当に面白くて、毎日友達と一緒にいるような感覚で仕事をしています。実習生さんが来ると、子どもたちは若い先生が大好きなので、「先生じゃなくてお姉さん先生がいい！」とか言われちゃったりするんですけど…。子どもと一緒に過ごすいろんなことがわかって、子どもたちの発想ってすごく素敵で、同じ一日がなくて、いつも毎日本当に楽しい生活を送っています。私にとって、短大で同じ目標に向かって頑張ってきた友達は、今も大切な存在です。同じ目標に向かっている人が周りにいるっていうのは、大切なって実感しています。本当に楽しい短大生活だったなって、今振り返ると思います。ありがとうございました。

教えて！先輩のライフコース

7月9日のオープンキャンパスでは、在学生の2名が卒業生をゲストに、インタビューを行いました！



飯田夏未先生

2015年度 卒業

三和幼稚園 幼稚園教諭

常葉学園高等学校出身



小山実杏さん

常葉大学短期大学部 1年

常葉大学附属常葉高等学校出身



柴田優月先生

2022年度 卒業

幼保連携型認定こども園

清水白百合幼稚園 保育教諭

静岡市立清水桜ヶ丘高等学校出身



大石優花さん

常葉大学短期大学部 1年

静岡県立浜北西高等学校出身

Q1

先輩方の学生生活について教えてください！

柴田 私は今年の4月に園に就職してから、約3ヶ月がたった今、学生生活を振り返ってみると、2年間あっという間だったという印象を強く持っています。でも実際に、現役大学生として過ごした2年間は、本当に密度が濃くて、毎日すごく充実していたなというふうに感じています。高校を卒業して、この短大に入学をしたときに、不安を感じていたことの一つに、1コマの授業の時間の長さがありました。高校までは一つの授業が50分でしたが、大学では90分です。90分間集中して聞けるかなと不安に感じていました。でも実際に、大学の授業が始まると、講義授業に加えて実践的な授業もすごく多かったので、90分間は長いと感じたことはほとんどなかったです。

ここで実践系の授業を少しだけ皆さんに紹介したいと思います。子どもの食と栄養という授業では、幼児にふさわしいおやつとして、クッキーとみたらし団子を作りました。この他にも離乳食とかミルクとかもみんなで作って、それを実際に食べてみて、「普段子どもたちってこういうの食べてるんだね」とか、「子どもにとってこういう栄養素が必要だから、この献立が立ってるんだね」とか、そういう話をしながら学べる授業がありました。

入学してすぐの4月の図画工作の時間には、両手に絵の具を付けて、机をぱんぱんとたたくような形で、みんなで作品を作りました。この授業を通して、今までしゃべったことなかった友達と、初めてしゃべってお友達になれたりとか、この授業を機にいろいろ学生生活もより楽しくなってきたなって感じています。

その他にも、県立美術館の広場までみんなでお散歩に出掛け、そのときの落ちている葉っぱとか、そのときに吹いてきた風から季節を感じてみたり、泥団子を作ったりとか、本当にさまざまな実践的な授業を行ってきました。改めてこの2年間を振り返って感じることは、

まずは子どもの頃に戻ったように全力で遊びを楽しんでみるという経験ができたからこそ、実習で見た、実際の子どもたちの姿とか、思いに共感する事がたくさんできるようになったということです。実習では「この子はもしかしたらこういう気持ちになれるから、この遊びをしていたのかな」とか、「子どもにはこういう目線で物事が見えていたんだな」とか、子どもたちの姿と、授業での学びがつながることがすごく増えて、より多くの学びが深まっていった2年間だった感じています。

飯田 私も同じように、2年間の短い時間で、忙しいんですけど、授業は実践的なものが多く本当に90分間があっという間でした。「子ども学概論」という授業があって、実際に園見学に行くのですが、就職する前から子どもと触れ合う機会も多くて、就職した今でも役に立っていることとかもすごい多いです。あとは先生との距離も近く、気軽に相談でき、親身になって聞いてくれるのがいいなって思います。忙しいんですけど、本当に私は放課後とかもほとんど毎日、どっかで遊んだりとかしてたので、忙しいけど遊びとかプライベートとかも充実できたりとかして、あっという間の2年間だったなって思います。

Q2 先輩方の「実習」について教えてください！

柴田 私が2年間行った実習は、教育実習、保育実習、施設実習の三つになります。私は、その中でも特に印象に残っている2年生の前期に行った教育実習第II期についてお話をしようと思います。この実習では、私が今就職をしている地元の子ども園で行いました。

この園は、異年齢混合のクラスになっているので、3~5歳の子どもたちが一つの保育室で一緒に生活をしています。私は、この実習で初めて「研究保育」を行いました。学生である自分が主体となって、保育活動の計画・実践を行うものです。当時、子どもたちの中で流行っていたしっぽ取りを計画したんですけども、初めての研究保育だ

ったこともあり、子どもたちが保育室から出でていっちゃったりとかして、全くうまくいかずに終わってしまいました。私は、「失敗してしまったな」と心がもやもやしたままいると、ある1人の年長児の子が、私に話しかけてくれました。その子は私に向かって、「優月先生しっぽ取り楽しかったね。また明日も一緒に遊ぼうね」と純粋に伝えてくれました。私はその一言を聞いて、保育って保育者が立てた計画どおりに進んでいくことが成功なんじゃなくて、その遊びの中で、子どもの思いがどのように動いたのかとか、それによってどのようなこの姿とか様子があったのか、一瞬一瞬でその子のことを受け止めて、寄り添って遊びを展開していくことが大事なんだなということにあらためて気付かされました。このときの研究保育での学びや、その他の実習での経験から、子どもたちのことをもっと知って、一緒に成長していきたいなと感じるようになりました。

飯田 先日も常葉短大の学生さんが、3週間の教育実習に来てくれました。クラスに入ってくれた学生さんは、最初はみんな「すごく緊張します」と言う方がほとんどなんですけど、実習が終わる日に「どうだった？」って聞くと、「すごく楽しくてあっという間だった」と言う方がほとんどです。実習生の学生さんには「書き物とともにすごく多いし、緊張すると思うんですけど、3週間楽しんでほしい」ってことを伝えました。子どもと積極的に関わって、実習生自身が楽しめば、子どもは自然とついてきてくれます。実習は大変だけど、一番は「楽しんでほしいな」って思います。あと、その日に「これってこうだったのかな」と疑問に思ったことは、小さなことでもその日に聞くことが学びにつながると思うので、「今、忙しいかな?」と思わないで、何でも聞いてほしいと思います。

Q3 現場では、短大出身者と大学出身者とで違いはありますか？

柴田 実際に就職をして3カ月たって、短大だからとか四大だからといったことを感じる場面は本当に全然ないんです。確かに四大のほうが、短大に比べると学生生活が2年間長いので、その分保育と向き合えるというか、じっくり学ぶことができるっていうのはすごいメリットだなっていうふうには感じています。けれど、短大は2年間っていう短期間で、たくさんの保育に関する知識とか実習での経験をたくさん吸収して、フレッシュな状態で保育者になれるので、そこが最大のメリットじゃないかなっていうふうに感じています。また、四大の方よりも社会に出ることが早いので、保育者として働くことができる年数も長くて、それがいざれ保育者として働く上での自信にもつながっていくんじゃないかなと思っています。私は、短大だからとか四大だからとかいったことは、全く感じずに楽しく働いています。

飯田 園によっては短大と四大で多少給料とかの違いはあるかもしれないんですけど、仕事内容はほとんど変わらないと思います。さっき

言ってくれたように、短大は四大と比べて、2年間早く現場に出て働けるのがいいかなって思います。

Q4 現場ではピアノをどのように使っていますか？

柴田 私の就職した園は少し特殊で、保育室にピアノを置いていないんですね。私の園では、わらべ歌を歌って楽しんでいるのですが、ピアノで伴奏を付けずに、周りの友達とか保育者の声を聞いて、一緒に歌ったりして遊んでいます。ただ、日常生活の中で保育者がピアノを弾いて行う活動をしている園も数多くあります。他の園に就職をしている学生時代の友達に聞いてみると、朝、子どもたちの登園後に「おはようの歌」、給食前に「お弁当の歌」、帰りの会では「お帰りの歌」を、毎日弾くと言っていました。その他にも、お楽しみ会で弾いたり、その月の歌を弾いたりすることもあるそうです。実際、私の友達の中には、大学でのピアノの授業で初めてピアノを弾いたっていう子もありますが、2年間の授業を通してバイエル終了程度まで上達をして、現場で楽しく子どもたちと弾き歌いしているという子も多くいます。なので、ピアノを弾いたことないとか、ピアノに不安を感じている方も安心して受験していただければと思います。

飯田 私は、幼稚園なので、朝の会とか、給食とか、帰りの会とか、季節の歌とか、結構歌います。私はピアノが得意なほうなので、子どもが立つとき、座るとき、子どもを注目させたいとき等に、ピアノを使うことがあります。リトミックという活動では、ピアノを使っていろんな音を出して、子どもたちが動物になりきったりとかして遊んだりすることもあります。そんな感じで、ピアノが弾けることは一つの武器にもなると思います。今はCD等もありますが、ピアノはできたほうがいいんじゃないかなって思います。

Q5 園ではどのように制作を行っていますか？

柴田 私も学生時代は制作に強い苦手意識を持っていました。けれど、冒頭で伝えたように、大学での図画工作の時間とか模擬保育の時間を通して、少し自信が持てるようになっていましたと感じています。実際に、就職園での制作活動についてお話をしたいと思います。マラカスは、4月に子どもたちが入園をしてきてから最近作ったものになります。もともと保育室に置いてあったものが、もう少し大きいペットボトルで、子どもたちが持ちにくそうだなと思ったのと、2種類しかなかったので、もう少しいろいろな素材の音を楽しめたらしいなというふうに思ってこれを作りました。見ての通りすごく簡単で、乳酸菌飲料の空容器に素材別に小さめのビーズとか、トウモロコシとか小豆とか、それぞれ素材別に入れて、ふたの所には接着剤を付けて、子どもたちが誤飲しないようにしています。本当にたったこれだけで作れるものなのですが、0歳の子どもにとってはすごく魅力的なものに感じているようで、日常的にこれ

を振って子どもたちは遊んでいます。

フェルト人形は、子どもたちが「いないないばあ」の絵本が好きなことをきっかけに、クラスの保育者と一緒に作りました。これは、前に顔があるんですけど、後ろには顔が付いてないので、これを「いないないばあ」ってやると、子どもたちがケタケタケタとすごく笑ったり、あとは登園時にお母さんと離れるのが嫌で、泣いてしまう子もとても多いんですが、これを使ってわらべ歌を歌ったりとか、いないないばあをしたりすると、うまく気持ちを切り替えられるみたいです。このおもちゃは、0歳児のクラスでは大活躍で、いつも遊んでいます。0歳の子どもたちなので、幼児と違って子どもたちと一緒に制作活動するっていうことはないんですけども、子どもたちが心地よく生活できるように、窓際の所とか、壁のちょっと空いている所とかにこういったものを置いて、心地よく生活できるように環境を整えています。

オープンキャンパスに足を運んでくださった皆さんも、制作活動に関して苦手意識を持っている方もいると思いますが、保育経験の豊富な先輩からいろいろ教わって、まずは実践してみることで、制作活動を楽しいと感じるようになるのではないかと思っています。



写真上：フェルト人形 左：マラカス 右：壁の飾り

飯田 私は今、年長の担任をしているんですけど、幼児は「これしたい」とか、「あれしたい」っていうのが言えるので、子どもたちがやってみたいと思ったことを行うと楽しんでできるんじゃないかなって思います。この写真は、7月の初めに夏祭りがあるのですが、その前に子どもたちと一緒に作ったお神輿です。これも、保育者が「お神輿作ろう」と言うんじゃないなくて、子どもたちが「去年の年長さんもお神輿を夏祭りで担いでいた」ということを覚えていて、「今年もやりたい」っていうことで、はじまりました。「今年は海の生き物をテーマにしよう」というのは、保育者で決めたんですけど、この上に乗っているタコは、タコキチという名前です。タコキチは…架空の生き物なので、「タコキチってどういう生き物なんだろうね」というところから、実際に子どもに絵を描いてもらって、その中から一番いいなって思ったタコキチを子どもたちが投票して決

めました。顔と足は、カラーボリでできるんですけど、これも今まで子どもたちが経験したことの中から「カラーボリで作りたい」とか、「足はによろによろにさせたい」というアイデアが出てきて、子ども自身がカラーボリを丸めてによろによろにできるように工夫していました。あとは、ほかの海の生き物とかも、保育者が「こうやって作るんだよ」というんじゃなくて、子どもが今まで経験したこと思い出しながら、さまざまな素材を選んで作りました。大人と考えたのよりは、見た目はきれいじゃないかもしれませんけど、子どもたちが作ったものなので、すごくかわいくて。子どもたちも、すごく楽しんで作っていました。作り方とか材料とか、子どもたちが自分たちで考えて進めていますが、いきなり「これ作ろう」というのは無理なんです。そういうのも、子ども自身が今まで経験したことがあるからこそできることです。制作は、保育者が主体じゃなくて、子どもが主体となって進めていけると、子どもも先生も楽しんでできるんじゃないかなと思います。



Q6 クラスの子どもたちの、すてきなエピソードや、保育者の魅力について教えてください。

柴田 まず、クラスの子どもたちとのエピソードなんですけど、0歳の子どもたちなので、お母さんお父さんから離れるっていう経験が初めての子どもたちになります。なので、4月の最初とかは1ヶ月ぐらい、本当に毎日毎日ずっと泣いて、どうすればいいんだろうってちょっと思ってしまってたときもありました。まずは、子どもたちと向き合ってみようって思って、この子は何がどんな思いから今泣いているのかなとか、そういう子のことをもっと知りたいっていう思いを自分が大切にして子どもと関わってみたことで、子どもが少しづつ自分の思いをたくさん表現してくれるようになったんですね。自

分でこっちに来てくれたりとか、目が合っただけでニコって笑ってくれたりとか、本当に小さなことなんんですけど。私はそういった小さな一つ一つの関わりとかが、その子どもたちにとって、人生の根っここの部分になるんじゃないかなって思っています。

次に、保育者の魅力ですが、私が普段子どもたちと関わる中で、子どもたちの成長する姿とか笑顔を見ることができたときに、保育者になってよかったですなっていうふうに感じます。子どもたちと日々関わって中で、忘れてはいけないなっていうふうに感じているのが、子どもも私たちと同じ一人の人であるっていう意識だと思っています。私たちが調子のいい日とか、あまり優れないなっていう日があるのと同じように、子どもたちにとっても、その日その時々で感じる思いとか姿は異なります。だからこそ、できなかったことが初めてできるようになったときの喜びとか、苦手なことに挑戦しようとした勇気とか、保育者や友達に言葉にして自分の思いを伝えることができないっていう葛藤とか、そういった子どもたちの思いを保育者は一番そばで受け止めてあげる存在でいることが大事だなっていうふうに感じています。そういった経験が繰り返されることで、子どもたちの自立にもつながっていくのではと思っています。

また一度できるようになったことが、ずっとできるっていうわけではなくて、昨日はできたのに今日はできなかったっていう場面も多々あります。このような場面とかに保育者として一緒に過ごすことができるっていう点も、保育の魅力であると感じています。もちろん予想外な子どもたちの姿に、臨機応変に対応することの難しさとか、大切な命を預かって働くことの責任感も日々感じています。けれど、子どもたちの無邪気に笑う姿とか、何かに夢中になって取り組む純粋な姿を見ることができたときに、保育者になれてよかったですなっていうふうに感じます。オープンキャンパスに足を運んでくださった皆さんにとって、この時間が保育者になる夢に向かって少しでも背中を押すきっかけになれば、嬉しく思います。

飯田 今、年長児の担任をしています。5月の終わりに運動会があつたんですけど、「運動会の練習をやりたくない」と言い出した子がいました。私が、クラスの皆に「○○君が運動会の練習やりたくないって言ってるんだけど、どうする?」みたいな感じで聞いたら、「いつも絵本を読んでる子だから、外に絵本を持って行ったら来てくれるんじゃない?」って言い出す子がいたり、「その子が運動会の練習をできるにはどうしたらいいのかな」というのを、子どもたちなりに、いろいろ考えてきました。その中で1人の男の子が「ふじ組さん、皆お友達だから、皆と一緒にやりたい!」と言ってくれました。しかし、「運動会の練習をやりたくない」って言った子は、「でも、僕は今は遊びたい!」と言って、なかなか練習に参加しようとしませんでした。けれども、ふじ組の子どもたちは「でも、皆でお友達だから、皆と一緒にやりたい!」って言ってくれました。そして、子どもたちどう

しの話し合いになり、最終的には練習を2回やることにして、1回目はその子は遊んで、2回目は、その子も一緒に練習をするということになりました。

年長のふじ組のこの子たちは、私が2年前に、年少で受け持っていた子たちです。年少児のときは、自分のことに精いっぱいな感じで過ごしていたこの子たちが、年長児となった今は、こんなふうに友達のことも考えて、「皆で一緒にやりたい」というふうになってくれたことが、すごくうれしかったです。こんな感じで、子どもの成長とかを間近で感じられるのも魅力の一つかなって思うんですけど、私は一番の魅力は、子どもたちと毎日一緒に過ごして、ささいなことでも、本当に笑ったり、楽しんだりとか、喜んだりとかできることが一番の魅力だと思います。私は年長の担任をすることが多い、子どもたちが卒園するのはすごく寂しいんですけど、子どもたちを立派に成長した姿で送り出すときに、幼稚園教諭をしていてよかったですなって、達成感を感じられるのも魅力です。あとは、保護者の方から「先生が担任でよかった」「あと2年お願いね」とか言われたりとか、子どもからも「先生大好き」とか言われたりとか、自分のクラスの子って特別で、一番かわいいなって思うので、そうやって言われたときは、すごくうれしくて、やっててよかったですなって思います。担任を持つと責任も多くて、仕事量も増えます。しかし、子どもとの絆を常に感じられる等、保育の魅力は、仕事量の多さよりも上回るんじゃないかなって思います。

Q7

高校生からの質問：常葉短大に入学する前に、やっておけばよかったことはありますか？

飯田 高校生のうちは、高校生にしかできないことを楽しんでくれたらいいんじゃないかなって思います。たくさん友達と遊んだりとか、そういう思い出をたくさん作ってくれればいいんじゃないかなって思います。

柴田 私も同じで、保育のことは、短大生活が始まってから授業で先生たちから一から教わることもたくさんあるので、高校生のうちはたくさん友達と遊んで思い出を作ると良いと思います。

大石 保育学生だからピアノの練習とかも、もちろんしたほうがいいにはいいんですけど。オープンキャンパスに参加することも、勉強も大事なんですけど、高校生のときの学校行事とかを、めいっぱい楽しんでおくといいんじゃないかなと思います。大学入ってから、友達との会話の中で「高校のときこんなことしたんだよ!」とか言うと、友達も「私の高校、こんなのとか、こういうのとかが、あったよ!」といろんな話ができる楽しいので、高校時代をぜひ楽しんでください。

小山 私もやっぱり高校の友達とか中学の友達とかたくさん遊んだり、話したりしたほうがいいと思います。大学に行ったり、専門学校に行ったりすると、県外に出ちゃったり、就職で遊ぶ機会が減っちゃったりする子が増えるので、高校の春休みとか冬休みとかの長期休みを利用して、お友達とたくさん遊んでください。



常葉大学短期大学部

TOKOHA UNIV. JUNIOR COLLEGE